

一般社団法人日本母乳バンク協会

Japanese Human Milk Banking Association

寄附趣意書

時下、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
私、水野克己は、早産児、疾病のある児の栄養方法を改善するために2017年5月に設立された一般社団法人日本母乳バンク協会代表理事を務めております。

言うまでもなく、赤ちゃんには出産したお母様の母乳が最適です。特に早く小さく生まれた赤ちゃんにおいては、母乳は薬とも考えられています。そうはいっても、母乳がなかなかでないお母様もいらっしゃいます。また、母乳が出ても母親の治療のために母乳を児に与えられない場合もあります。

そのような場合、海外では母乳が出るようになるまで（使えるようになるまで）の間、母乳バンクからドナーミルク（ドナーとしての基準を満たした女性から提供された母乳で、検査に合格し、かつ低温殺菌処理をした母乳）をあげることが一般的になっています。アメリカ小児科学会をはじめ多くの学会や機関は、お母様の病気や状況により自分の母乳をあげられない場合には、人工乳よりも母乳バンクから提供されるドナーミルクを優先して与えるように書かれています。その理由は、小さく生まれた赤ちゃんには、人工乳（粉ミルク）よりもドナーミルクのほうが未熟な腸管に負担がかかりにくいことと、腸管を成熟させる作用が期待されているからです。

先進工業国で母乳バンクがない国はありません。日本でもようやく2014年より厚生労働科学研究の分担研究として昭和大学江東豊洲病院に母乳バンクを設立し、ドナーミルクを必要とする赤ちゃんに提供してきました。その経験をもとに2年前、日本中のNICUでドナーミルクをできるようにするために一般社団法人日本母乳バンク協会を設立いたしました。本協会の安全性を保つためにも、エキスパートオブザーバーとして日本産婦人科学会理事長、日本周産期新生児医学会理事長（設立時）、日本新生児成育医学会理事長（設立時）、日本小児科

学会会長、日本母乳哺育学会理事長など関連学会の先生方に登録していただき、本協会の活動をディスクローズしております。

日本全国の NICU 施設に母乳バンクの必要性をご理解いただけるようになり、提供を希望される施設も増え、昨年の周産期新生児医学会・新生児成育医学会などにおいて学会発表もいただいています。現在、倫理委員会承認待ちの施設も増えています。当方としては必要な赤ちゃんには必要なときに必要なだけ提供したい、それもご家族の経済状況によるのではなく医学的な必要性に応じて・・・と考えております。これまで郵送料以外は無償で提供させていただいておりましたが、1日5リットルの低温殺菌にて、培養検査だけでも3万円かかります。また、ドナースクリーニング検査に1万円、事務所費・光熱費などで月に10万円以上かかっております。

本協会の趣意をご賢察の上、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら皆様の益々のご繁栄を祈念いたしております。

謹白

2019年5月吉日

一般社団法人日本母乳バンク協会

代表理事 水野 克己

(昭和大学医学部小児科学講座 主任教授)

免税措置なし

振込先：

三菱東京UFJ銀行新稲毛支店 普通：0910697

振込先名：一般社団法人日本母乳バンク協会 (シャダンホウジンニ

ホンボニュウバンクキョウカイ)